



石小だより

～すてきな大人に育つ～

宇部市立黒石小学校
コミュニティ・スクール
校報第6号
10月号
令和3年10月1日

人まことに温かなり この黒石の地

～関わりの中でともに悲しみ、ともに喜ぶ～

「校長先生。心配いらんよ。〇〇さんは大丈夫じゃけえね。おうちで元気にしちよるんて。」

休み時間、運動場で低学年の子どもが私を手招きするので側によると、こう耳打ちをしてくれました。「わかったよ、ありがとう。本当にやさしいね。〇〇さんも嬉しいと思うよ。」そう返すと、その子どもはにこりと笑って、また駆け出していきました。陽性判定を受け、欠席が続く友だちを思う温かな言葉です。この子どもの背中には、そこには見えないご家族と、地域の皆様方の温かなご配慮とご対応、そして言葉があつたはずです。感謝の思いで私は胸がいっぱいになりました。

9月当初、新型コロナウイルスの陽性判定を受けた子どもが短期間に複数確認され、各ご家庭、そして地域の皆様も、さぞかし大きく深い不安の思いを抱かれたことだと存じます。しかし数日にわたって学校配信メールでお伝えしたとおり、皆様方の冷静で落ち着いたご対応のおかげさまにより、大きな混乱もなく学校は日常を取り戻しつつあります。

これは、私たちのこの黒石という地が、まことに「人 温かい」地域であることを強く確信させてくれます。そして一連の対応を行う中、やはり私は、昨年度の7月にもお伝えした「実語教」※にある下の言葉を思い浮かべずにはおれません。

※ 江戸時代の寺子屋で習字本、修身書として用いられました(平安時代に編さん)

**他人の愁(うれ)いを見ては、即(すなわ)ち自ら共に患(うれ)うべし
他人の喜びを聞いては、即(すなわ)ち自ら共に悦(よろこ)ぶべし**

⇒ 人が悲しんでいるのを見たら、自分も一緒に悲しんであげましょう。

人が喜んでいるのを見たら、自分も一緒に喜んであげましょう。

今回延べ約140名の子どもが新型コロナウイルス検査を受けましたが、黒石小校内における感染(子ども間・教職員から子ども)は生じていません。日本小児科学会では「子どもを新型コロナウイルス感染から守るためには、周囲の成人への新型コロナワクチン接種が重要です。」と、私たち大人の行動変容を促す提言をしています。子どもたちの健康を守り、学ぶ機会を保障するため学校では引き続き感染予防に取り組みます。引き続き皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

校長 小松 茂 文